

連載 書写ってこんなにも面白い！ ②

書写の要素

字形：内外の組み立て方のポイント②

山梨大学教授 宮澤 正明

今回も内外の組み立て方を取り上げます。

■三方を囲む形

三方を囲む構えには前回取り上げた「門（もんがまゑ）」のほか、「口（く）がまえ・けいがまえ」「冂（うけはこ・かん）よう」「匚（はこがまえ・く）かくしがまえ」などがあります。これらの部首による漢字は少ないので、ここでは、三方を囲む形やそれを要素として持つ字例を取り上げます。

①「冂」の形や要素

「門」の中央部を単純にした形です。したがって、「冂・同」などの組み立て方は「冂」と同じように考えることができます。次のように内部の部分が外に出ないようにします。これが応用

同 同 冊 冊

ただ、「出」の下の「凵」に関しては、下にすばむ形がよいのか、それともその逆の方向にした方がよいのかという問題があります。上にまったく同じ「山」形があるので、下の「凵」を同形にすると中央部がふくらみスマートさが損なわれます。そこで、下の「凵」の縦部を内側に倒して全体を引き締める工夫が生じます。

出 出 出 出

行書例

微妙な部分ではありますが、筆順や筆路という観点（書きやすさ）や字形のまとまりという観点から後者の方がいいでしょう。行書になると後者の形になります。やや曖昧性を残した部分ですが、子どもたちに「どちらの書き方が書きやすいかな、どちらがかっこいいかな」などと問いかけて、字形に対する感覚を高めることに利用できる字例とも言えます。

③「凵」の形や要素

小学校学習漢字では、「凵」を持つ漢字は「区・医」の二字です。この二字は、筆順の誤りが多いので気をつける必要があります。「区」は一書いてメ、「医」は一書いて矢などと唱えさせて覚えるようにしたいものです。組み立て方は内部の「メ・矢」を全体の中心よりやや右に位置させることで収まりがよくなります。また、下の横画の右端は上の横画より長くなります。内部の「メ・矢」をしっかりと受け止めて安定を図るためです。

できる文字として「冂・冊」があります。

また、「口」が部分として使われる「雨・南・向・画」などは、その形が横広になるので「口・田」などと同様、左右の縦部は下にすばむ形になります。そうすることによって視覚重量（見た目の重さ）が上がるようになります。よりスマートな形にしようという工夫が働いているのです。

口 南 向 画

なお、「内・肉」の「冂」形はちよつとやかいです。「冂」のアウトラインがほぼ正方形になるからです。この場合は、垂直か「南」などの角度より少なめにすばめる形にするとよいでしょう。

内 肉

②「凵」の形や要素

この形は「山・出・画・齒」などの字例に見られます。いずれも最後に書かれる形で、中に入る部分をしっかりと受け止めるように組み立てます。また、横広になるので、左右の縦画部はやや下にすばむ形にします。

画 齒

区 医

細かいことを取り上げていますが、先人がいかに工夫を凝らして字形をよりよいものにしてようとしているかがわかると思います。このような苦労や工夫を伝えることが子どもたちの文字感覚を養つことになると思うのです。

＜「凵」＞

凹凸も三方を囲む漢字

中学校で学習する「凹」も三方を囲む形で、部首はいずれも「凵（うけはこ）」です。では、それぞれの筆順は？

凹 (五画) 凸 (五画)